

## 松江キャンパス 四大化へ方針決定



島根県立大学短期大学部副学長

岸本 強

今年度4月から副学長の任に就きました岸本強でございます。責任の重い職ではありませんが、教職員・学生と一緒に楽しむ昼休憩のリフレッシュ、通称「昼バド」でストレスを発散して職に臨んでいます。皆様の温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

さて、松江キャンパスの最重要課題であります四年制化につきまして、今年度6月定例島根県議会で次のように方針決定がなされました。主な内容は、(1)3学科全ての四年制大学化、健康栄養学科を出雲キャンパスへ移転、(2)一部短大の存置(保育学科、総合文化学科の定員を縮小しての存置)、(3)開設時期は平成30年4月というものです。

これまでの道程は容易なものではありませんでした。平成24年度には松江キャンパスでの「あり方」検討、翌25年度には法人改革検討委員会での「あり方」検討をし、2年越しにまとめた「大学試案」を本田学長から知事へ提出できたのです。その後、県では有識者懇談会を開催し、「松江キャンパスのあり方に関する報告書」としてまとめ、上記県議会において県の方針が決定されたのでした。

現段階での案は、健康栄養学科は出雲キャンパスへ移転し、看護栄養学部として看護学科と2学科構成になり、保育、総合文化学科は定員を縮小して短大部を存置させ、同時に1学部2学科の四年制学部を設置するものです。

目下、期限の設けられている関係省庁への設置認可申請、養成課程認定申請にむけ、多種多様な課題を抱えながらも、一つずつ着実に作業を進めているところです。今年度から事務室に「新学部設置等準備室」が設置され、5名の精鋭が強力な推進役として指揮を執ってくださり頼もしい限りです。

「選ばれる公立大学へ」「役に立つ公立大学へ」「支援し続ける公立大学へ」の想いを胸に刻み、教職員一体となり、「チーム短大」として四年制新学部学科設置に邁進していきたいと思っています。関係の皆様のご強力なご力添えをよろしくお願いいたします。(12月記)





# 公開講座

## 「健康栄養講座：続 高齢者の食と健康」

健康栄養学科 准教授 籠橋有紀子

この講座では、昨年に引き続き、島根県の高齢者の健康について、現状と取り組みを紹介し、身体の変化に対応した食および健康づくりについて講義を行いました。

第1回の高齢化と島根の食では、高齢化による身体機能の変化、中でも口腔内環境についてお話ししました。講義の中で、島根県の食材を使った高齢者や家族一緒に楽しんでもらえるような調理品および食品について紹介し、実際に試食をしてもらいました。島根県産米のつや姫、きぬむすめ、こしひかりの食べ比べをしてもらったところ、「比べて食べる機会はなかったけれど、こうしてみると見た目や食感に違いがあることがわかる」「家でも同じ米ばかりでなく、いろいろと食べてみたいと思う」などの感想をいただき、島根の食材を活用してもらったきっかけづくりになった講座でした。



## 「案外知っているようで知らない「人」の話2」

保育学科 准教授 飯塚 由美

心理学のことをやさしく解説する入門編1の続編として開講しました。人の「行動」と「心理」を研究する「心理学」はどのようなものなのか、また、実際、何を研究しているのかなど、多様な領域をかかえる現代心理学をわかりやすく紹介する講座です。今年の講座では、特に、人との関わりや集団をテーマに、第1回は、私たちの住んでいる社会って？

—自分の世界は人と同じ世界なのか、第2回は、仲間、グループ、コミュニケーション、第3回は、人との関わりどうなってるの？—身近なことと心理学、についてお話ししました。若手からシニアまでの受講生の方々が、メモをとりながら、また、質問等をされながら熱心に聴講され、こちらも楽しく勉強させていただきました。



## 「総合文化講座」

総合文化学科 准教授 工藤 泰子

平成27年度の「総合文化講座」は、浜田キャンパスの村井洋教授、瓜生忠久教授、出雲キャンパスの橋本由里准教授にもご協力いただき、本学総合文化学科教員5名（岩田英作教授、小泉凡教授、藤居由香准教授、塩谷もも准教授、工藤）、計8名が、それぞれの専門の立場から幅広く「文化」に関する講義を行いました。

「昭和の東京オリンピックと観光教育」（工藤担当）では、近代観光史研究の立場から、2つの東京オリンピック（昭和39年の第18回東京大会と、昭和15年に開催が決定していたものの戦争により返上した「幻の東京オリンピック」）と、日本における観光教育機関の設立との関係についてお話ししました。

今年の「総合文化講座」は延べ291名の方に受講していただきました。来年度も引き続き開講しますので、よろしく願いいたします。

## 「子どもがいる家庭のための英語教育実践講座」

総合文化学科 准教授 ラング・クリス

この講座では、子どもが小さいうちから英語に親しませたいという方のために、家庭で実践できる英語教育という観点から講義をしました。私は、大学では第二言語習得という分野を専門に研究しており、自宅では2人の幼児に対して英語で子育てをしています。この経験を踏まえて、理論と実践の両面から3回に渡ってアプローチしました。

まず、子どもの言語習得の仕組みを研究データを交えてお話ししました。それから、言語能力を効果的にアップする方法として、家庭でできる英語環境作りを提案し、おすすめの教材・絵本の読み聞かせ法・手遊び・歌などを紹介しました。また、受講者同士で実際に絵本を使った実践や、お子さんに話しかける育児英語を練習していただきました。

楽しい言語環境を作ることによって、子どもは自然に英語を習得します。この講座では、そのための方法をいくつかご提案させていただきました。2017年度には同内容で開講の予定ですので、よろしく願いいたします。

